医療法人聖真会渭南病院（高知県土佐清水市）院長
溝渕 敏水

みぞぶち・としみ　1994年東京慈恵会医科大学卒業。2013年より現職。
日本医師会認定産業医。日本医師会認定健康スポーツ医。

ほっとひと息

まつり

私は現在、高知県最西南端の公共交通で東京から最も時間のかかる土佐清水市にある「渭南病院」に勤務しています。

11年前に出身地の土佐清水市に戻り、「渭南病院」に勤務しはじめました。18年振りに地元に戻ると、私が子どもの頃にあった活気は無く、人口も減り、商店街もいわゆるシャッター商店街となっていました。医療もしかりで、当市内の救急搬送は8割が市外搬送されるという現状…。

しかし、街も医療もどんどん衰退していく中、ひとつだけ変わらずに続いているものがありました。地元の夏祭り「あしずりまつり」です。この祭りは、50数年続いており、踊りと花火が主体の祭りで、現在は四国でも有数の花火大会として知られるようになっています。

私の先輩がその祭りの実行委員長になられたときのことです。「渭南病院から20年ぶりにチームを出してくれ！」と言われ、二つ返事で「わかりました」と伝えてしまいました。そうは言ったものの「小中学校の運動会で踊ったことがあるくらいの私に何をしろというんだ」と考えているうちに、すでに祭り開催2カ月前…。踊りの振り、衣装、曲、何一つ決まっておらず、そのまま、出場せずにやり過ごそうと考えていましたが、そう甘くはなく、再度の出場要請を受けました。さすがに「出ません」とは言えず、当院事務長に相談したところ、ある有名なよさこいチームを知っているとのことで、藁にもすがる思いでお願いに伺うと快く引き受けてくださり、紆余曲折はあったものの、無事「あしずりまつり」に参加することができました。

終わってみると、思わぬ収穫がありました。いままでは難しかった部署間での交流が生まれ、職員の雰囲気が明るくなってきたのです。祭り、特に「踊り」には思わぬ効果があることを思い知らされました。

それならば、やはり高知県といえば「よさこい祭り」です。出ない手はない。ただ、渭南病院として出るのは、「もったいなさすぎる！」。地域を巻き込んで出場すれば地域の活性化にもつながると考え、2011年に「いなん（土佐清水を含む四国西南地域の総称）」というチームを立ち上げ、「よさこい祭り」に参加しました。

元来、渭南地域には「よさこい」の文化がなく、関わりのない祭りでした。私自身も「よさこい祭り」に興味はなく、「なんであんなことを…」と思っていたくらいでした。参加すると決めてからの数カ月は、楽曲・衣装・踊りの振付け・地方車（じかたしゃ）などなど用意するものばかり。正直、恐ろしいくらいの準備が必要でした。

しかしながら、実際に参加してみると「踊り子」一人ひとり、各チーム、場所を提供してくれている地域の方々の物凄い熱気を感じ、踊り子、チーム、街が一体となった本当に良い祭りでした。「これはみんなやみつきになるわな！」と正直ハマってしまい、今年（2014年）も懲りずに参加するべく、準備を進めています。

みなさん、「あしずりまつり」「よさこい祭り」に参加（出場・観覧問わず）してみてはいかがですか？ 最後になりますが、お手すきの際に「いなん」のホームページ（http://www.t-inan.jp）を見ていただければと思います。

2013年、「よさこい祭り」での集合写真。
奥は「いなん」地方車、地方車の上は「あおり」。

「よさこい祭り」は商店街の道路を封鎖して地方車を先頭に踊りながら進行していく踊りの祭り。長い所は1kmも踊ります。「いなん」は参加 200チームの中でも数少ない男踊り、女踊りに分かれたチームです。